

12 検査部

連絡先：
075-751-3502（部長室）

診療部の特徴

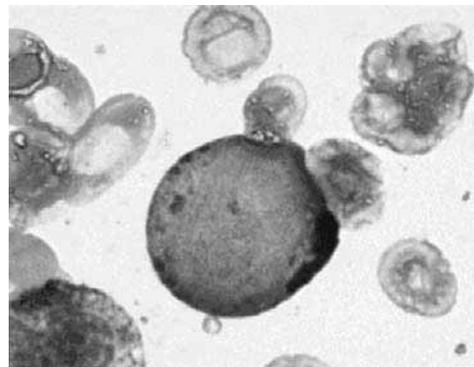
- 1) 医療のサポート
 - ・RIA検査のnon-RIA化による検査の迅速報告と業務の効率化、省力化、低コスト化
- 2) 感染症診療の情報源
 - ・感染制御部との密な連携
- 3) 遺伝子細胞検査
 - ・移植医療への貢献
- 4) 生理検査の充実
 - ・循環器関連検査の検査部への集約



non-RIA分析器

で1時間前後で検査を終えている。このため、外来診察前検査や検査後再診察が可能となり、優れた臨床的有用性を発揮している。なお、システム部門は採血業務や、尿生化学および一般検査も担当しており、外来採血患者の混雑時などに機動的な人員配置を行っている。

システム部門では血液像の画像管理を行っており、この機能を活かした画像付き骨髄像検査報告書を本年度作成報告している。



（血液像）

沿革と業務体制

当大学病院は地域医療機関としての役割を担いながら、最先端の高度医療を推進するとともに教育機関としての責務を負っている。臨床検査業務を行う検査部は中央診療施設の主要部門として、質の高い臨床検査を速やかに診療側へ提供している。

業務内容の特徴と実績

平成16年度は、従来のRIA（放射免疫測定法）から放射性同位元素を用いないnon-RIA（非放射免疫測定法）に変更して検査の迅速化と経費の削減を実現した。また、入院患者用採血管の検査部払出を開始して病棟業務の改善に貢献した。

1) 検体検査部門

システム部門は、検査業務の効率化、迅速化、省力化、低コスト化を目的として、新システム（MOLIS）と自動分析装置を接続した搬送ラインを中心に構築されている。新システム（MOLIS）の特徴は、検査予約情報を持つことにある。これをもとに、平成15年度末より病院のホストコンピュータがダウンしても、事前にオーダされていた検査の実施が可能となっている。また、検査の進捗情報を管理し検査結果の報告を迅速に行っており、外来至急検査は検体到着から報告ま

平成16年度の国立大学法人化に伴い、変形労働時間制による二交替制業務が導入された。夜間休日の緊急検査室業務は宿日直制から二交替勤務制となり、非番日や振替休日制度が確立した。これにより、夜間休日の緊急検査サービスが向上した。

平成16年6月から従来から要望されていた入院患者用採血管の準備供給を検査部が行うようになった。毎日午後3時頃には南西病棟を含む全病棟に翌日採血分のラベル付き採血管を患者毎に仕分けして払い出している。さらに、一部の病棟で行われていた尿検査を全面的に検査部で実施している。これらにより、病棟における作業の軽減が図られ、病床稼働率の向上にも貢献している。

平成16年8月から従来のRIA（放射免疫測定法）から放射性同位元素を用いないnon-RIA（非放射免疫測定法）に変更した。以下のような検査の大幅な迅速化と経費の削減を実現した。

- ・検査結果報告時間の短縮；リア検査で2日間を要していた平均検査報告時間が約2時間に短縮。外来患者の即日診断治療にも利用可能となった。
- ・検査業務の省人化；リア検査室業務担当者数が8名から3名に減少し、採血管払出し業務、尿検査、生理機能検査の業務拡大と充実が図られている。
- ・試薬・消耗品経費の削減；平成14年度検査試薬支払い実績ベースの比較において年間の試薬経費の削減額は5400万円に達し経費改善に大きく貢献した。

・患者負担の軽減；ノンリア化によって検体量が少なくてすむことから、患者一人当たりの平均採血管数が半減した（3本→1.5本）。これにより、患者負担を軽減できるとともに、採血管購入経費も削減できた。

平成16年10月からは、従来研修医が主体となっていた緊急検査を原則として検査部が実施することとなった。新研修医制度による研修医減少に対して、研修医業務負荷の軽減に貢献している。

2) 生理機能検査部門

生理機能検査部門は、種々の診断機器を用いて臨床診断に必要な情報を患者様から直接検査する部門で、専任教官2名、技術職員14名、事務職員1名で各種検査業務を担当している。

主な検査項目としては、脳波、筋電図、誘発電位、神経伝導速度測定など脳・神経・筋系の検査を行っている。平成16年7月から口腔外科の咬筋筋電図検査を新たに開始した。また呼吸機能、心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、心音・心機図、心臓超音波・血管超音波など呼吸・循環器系の検査を行っており、腹部大血管や腎動脈、四肢の動脈および静脈の評価にも取り組んでいる。また消化器内科と連携し、尿素呼気試験も担当している。

当部門の特徴としては、脳死判定を含めた病棟への出張脳波検査（ABRを含む）を実施している他、心臓・血管超音波検査の出張検査にも循環器内科と協力

の上対応している。

さらに従前の心臓・血管超音波検査および運動負荷検査は、検査部の他に循環器内科、内分泌・代謝内科、老年内科などの各診療科でもそれぞれ独自に施行されていたが、検査の効率や精度とデータ管理などの改善のために、平成15年2月より各診療科と連携を持ち、原則としてこれらの検査を全面的に検査部に集約し施行することとなった。腹部超音波検査などの心臓・血管以外の超音波検査についても導入にむけ現在検討中である。また、院内外を問わず、超音波検査の見学・研修も受け入れており、好評を得ている。

各検査オーダーに関する説明は、医師向けのオリエンテーションや検査部マニュアルを作成することによって行っている。

高度先進医療等への貢献

検査部は中央診療施設として各診療科における先進的医療を支える立場にあるが、検査項目によってはそれ自体が先進的内容であるものもある。EBウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。探索医療センター等のプロジェクトへの参加など、今後更に感染症・遺伝子検査領域での先進的取り組みが計画されている。

また、生理機能検査部門においても種々の高度先進医療を支える検査データを提供している。

16年度検査部検査実施件数

(件)

検査区分	外来	入院	合計
一般検査	88,134	38,088	126,222
血液学的検査	284,890	293,883	578,773
生化学的検査	2,024,659	1,894,871	3,919,530
内分泌学的検査	73,651	31,715	105,366
免疫学的検査	191,579	147,481	339,060
微生物学的検査	12,082	61,032	73,114
病理学的検査	15,626	10,749	26,375
その他の検体検査	34,808	9,380	44,188
検体検査 小計	2,725,429	2,487,199	5,212,628
時間外・緊急検査	41,934	338,108	380,042
循環器機能検査	12,390	5,870	18,260
脳・神経機能検査	2,186	1,271	3,457
呼吸機能検査	6,479	4,933	11,412
超音波検査	2,839	2,692	5,531
その他の検体検査	1,032	1,390	2,422
生理機能 小計	24,926	16,156	41,082
採血・採液等	89,752	108	89,860
合計	2,882,041	2,841,571	5,723,612